

ふるさと講座・自然系「コウモリ観察会」の様子

7月29日（木）道指定有形文化財「奥行臼駅通」にて恒例の「コウモリ観察会」が開催されました。根室市歴史と自然の資料館、学芸主査の近藤憲久氏を講師に迎え、北海道に生息するコウモリのお話や、実際に捕獲し、調査のための種の特定や計測などを行う作業を観察しました。

捕獲されたコウモリは「ホオヒゲコウモリ」21匹で、計測中に手から離れて飛び立ってしまうハプニングもありましたが、天井を旋回する姿を観察することも出来ました。普段は目にする事のないコウモリをまじかで見れることから、写真撮影や翼にさわるなど参加者は興味津々でした。



講師の近藤 憲久氏



道東地方のコウモリ

世界中では 970 種が生息し、哺乳類の 20% を占めています。

日本では 35 種、北海道で 19 種、道東で 13 種、町内で 9 種確認されています。

●どんな動物

体の大きな特徴は翼があることです。赤ちゃんのときはお乳を飲んで育つ私たちと同じ哺乳類で、唯一自由に空を飛ぶことができます。

●住んでいるところ

根室周辺では樹洞、廃屋、橋の下にいます。活動している季節は 4 月中旬から 11 月中旬で、それ以外は冬眠するそうです。

●コウモリの重さ

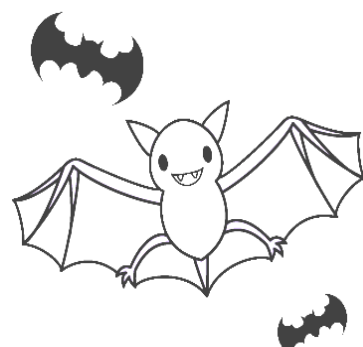
根室周辺にいるウサギコウモリでは 5～13g で、1 円玉 5～13 枚ぐらいです。

●何を食べている

夜に飛ぶ昆虫（蛾、ユスリカ）を食べています。

●別海町で生息が確認されたコウモリ

モモジロコウモリ（多い）・トーベントンコウモリ（多い）カグヤコウモリ（多い）ホオヒゲコウモリ・ヒメホオヒゲコウモリ・ノレンコウモリキタクビワコウモリ（多い）ウサギコウモリ（多い）コテングコウモリ



近世の別海を探る 「西別川河口から南、風連湖内」～その5～

トウフト

文献史料の標記は、「チカリロ」「トウフト」「トウブツ」「トウフト」「トウフト」などがあります。

○地名の由来

☆〔トウフト〕→「トウフト 沼 入口」

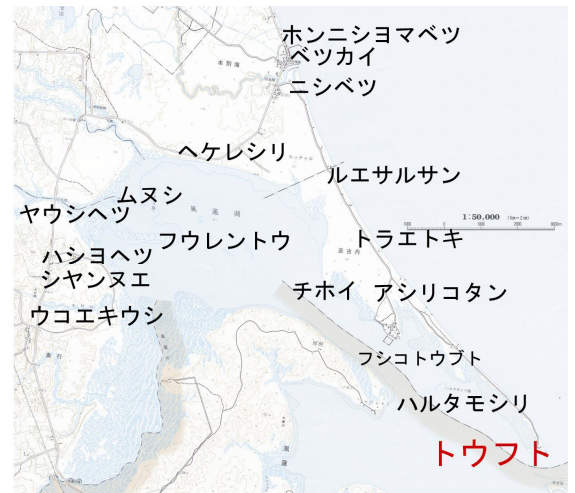
『万覚帳安政辰三年調〔子モロ里程〕』加賀伝蔵 安政3年(1856)

☆〔トウフト〕→「沼の口なり」

『協和私役』窪田子蔵 安政3年(1856)

☆〔トウフト〕→「沼口」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)



『別海町管内図5万分の1』別海町役場



○地勢・建物など

松前藩復領時代 文政4年(1821)～安政元年(1854)

●「チカリロ・トウフト・トウフトとも云り。此処嶋の様になる。此南の川口をトウバエと云なり。船路は凡アツウシベツより三リ余と思われる。扱是より船に而海岸を乗行ニ暮方の風景実ニ目を驚かせり。」

『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化2年(1845)

●「字トウフトニ有一出張漁小家壺ヶ所長拾壺間横四間 ホロモシリ持 外 板蔵壺ヶ所 茅蔵貳ヶ所」 『嘉永七年七月水野正左衛門様差上書面写壺冊青山弥惣右衛門様差上書面写壺冊』支配人善吉 安政元年(1854)

幕府再直轄時代 安政2年(1855)～慶応3年(1867)

●「トウフト 十八丁 又トウハエとも云、湖の落日也。此沼口巾四十件も有と聞り。尚沼内のことは次にしるす。」 「竹四郎廻浦日記」松浦武四郎 安政3年(1856)

●「チカソロ 但トウフト渡口 此所はフウレントウ入江口無岸トウフト江直渡五丁四拾間に御座候」

●「字トウフト丑子向鮭漁場巾三拾間 長四拾間但フウレントウ入口西の方 ホロモシリ海岸里数三里 三拾四丁壺間但傍木杭有」

●「トウフト 出張漁小家 壺軒 横四間 長八間 ホロモシリ番家持 板蔵 壺軒 茅蔵 四軒 此所前濱鮭漁有之ホロモシリ番家より出張候」 『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政3年(1858)

別海町郷土資料館だより No.133

発行日 平成22年8月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

今年で6回目を迎えた「コウモリ観察会」参加は2回目という方もいらっしゃいました。大人にも人気があり、コウモリを飼いたいという方もいました。さらに、計測中に手から離れ天井を旋回するコウモリは、なんとも言い難い光景で、みなさん大喜びでした。(K.I)